



我が子に限らず、漠然と「子どもらしくてかわいい～」と思うことはありませんか。そもそも子どもらしいとは、具体的にどんな様子をいうのでしょうか。辞書で調べると、「あどけない様子」とあり、なんともあやふやな答えで分かりづらい…。

認知心理学の権威であり、また東京大学名誉教授の佐伯 胖先生は「子どもらしさ」について次のように言われています。

- ・物事に夢中になること
- ・柔軟に(こだわりなく)探求すること
- ・不誠実さには進んで拒絶、反応すること
- ・驚きを受け入れること
- ・物事に「聴き入る」こと

これらのことは、まさに段原みみょうの子どもたちそのものの姿です。



8月のある日、2・3歳児合同で過ごしていた際、一人の保育者が数人の子どもたちのリクエストに応え、絵本の読み聞かせを始めました。ストーリーの楽しさに加え、保育者の語る声や顔の表情・しぐさ、テンポなどもよかったです。たちまち、たくさん子どもたちが集まってきました。真剣なまなざしの子、うっすらと笑みを浮かべる子、どの子も想像力を働かせながら、絵本の世界にぐっと入り込み、その集中力たるや、周囲の音などは一切気にならないといった様子でした。子どもたちは、「子どもらしさ」が全開だからこそ、好きなことにわくわくしながら、没頭し、そうする中で、よく考えたり、粘り強くやってみたり、ある時は、友だちと話し合いながら進めたりなど、心が育まれ、自然に知恵や知識も身につけていきます。私たち周りの大人は、子どもらしさゆえに夢中になれる場を大切に見守り、またその場で得る子どもの内面の成長に気づき、しっかりと認めてあげることが重要なポイントになるのではないかと思います。

私たち大人も心のどこかに「子どもらしさ」を持ち続け、生きいきと過ごしていきたいものです。

さて、8月初旬に段原小学校の先生方が大勢来られ、次のようなコメントをいただきました。

- ・子どもたちが自己決定する場面が多く、一人ひとりが自分で選んで好きな場に行き、集中して遊んでいた。
- ・子どもたち全員のあそびが保障されている。
- ・年長児は、はさみや段ボールカッターを自分で出して使用していたので驚いた。  
小学校では、先生の数が少ないということもあり、安全の為、活動の一つに制限することが多い。
- ・年長児は、様々なあそびを自分なりに考え、広げている。その姿を就学してからも引き継いでいけるようにしたい。
- ・これまで入学してくる児童に対し、「赤ちゃん扱い」をし過ぎていた。今回、乳幼児期に多種多様な経験を積んでいるということがわかった。これからは、一年生にもっと色いろな挑戦をさせてあげたい。

私たち保育園からは、「みみょうの保育理念である『感謝と思いやり』のある『自主的な行動』のとれる子に のもと、『何かができる、できない』という技術的な能力を伸ばす保育ではなく、子どもたちから発する、『やりたい』という気持ちを重んじ、子どもたちが自ら動き、考える楽しいあそびの中に心の成長(=非認知能力)があり、乳幼児期にしっかりと育まれていくことで、学童期、青年期にさらに力をつけていくと信じて保育をしている。」と話しました。

今回のような取り組みが、お互いの保育・教育を理解しあい、子どもたちの継続した心や学びの成長過程を捉える機会となっていくのではないかと思います。保育園の6年間だけではなく、その後の子どもたち一人ひとりの幸せを心から願っています。